

大道芸アジア月報 2020 年 8 月

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」

vol. 31、no. 8

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>■お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com■東京都ヘブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※上記の大道芸スポットは、3月より中止していましたが、8月1日現在、次の場所で再開しているようです。

大阪パフォーマーライセンス：南港 ATC、大阪市立科学館前、服部緑地、花博記念公園、鶴見緑地、大阪城天守閣前・JO-TERRACE OSAKA

東京都ヘブンアーティスト：東京国際フォーラム、町田ターミナルプラザ、東京芸術劇場前

しずおか大道芸の街：ドリームプラザ、

ヨコハマ大道芸：グランモール公園

江ノ島大道芸：平日のみ再開

★第 20 回ヘブンアーティスト募集 <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/07/14/09.html>

募集締め切り：8月17日（月）消印有効

HPより応募用紙をダウンロードして、必要事項を記入して、メンバーの証明写真、資料動画DVDを同封して、下記事務局へ郵送。

第一次審査（書類・映像）9月下旬

第二次審査（公開実演）12月1日（火）～12月3日（木）

事務局 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 生活文化局文化事業部ヘブンアーティスト担当

★今月の大道芸公演

※新型コロナウイルス・パンデミックにより、多くの催しや公演が中止・延期になっています。HPなどでご確認ください。

△四国中央 紙まつり【延期】 <https://kami-maturi.jimdo.com/> ○愛媛県四国中央市川之江地区

●8月1（土）2（日）→令和3年（2021）7月31（土）8月1（日）

△第13回はこだて国際民族芸術祭【通常開催は断念】 <http://wmdf.org/> ○函館市元町公園ほか

●8月5（水）～11（日）

△FUJI-Q 大道芸サマーフェスティバル 2020 <https://www.fujiq.jp/event/h5f6de00000202ws.html>

●8月8（土）～16（日）雨天中止 ○富士急ハイランド ピザラ前広場

8（土）～10（月祝）ジャグラーみぞん、太平洋、YoYoPerformer NiA、ジョー次

11（火）～13（木）Performer ZEN、Juggler Laby、レオ、スピニングマスターズ

14（金）～16（日）CHIKI、あまる、レオ、スピニングマスターズ

△お盆は海側デッキで夏まつり <https://www.dream-plaza.co.jp/event/detail.php/619>

●8月12（水）～15（土） ○清水エスパルスドリームプラザ

12（水）三雲いおり、メランコリー鈴木

13（木）ひいろ

14（金）15（土）三雲いおり、ひこひこ

△とかち夏空大道芸フェスティバル 2020【例年通りの開催はできない】 <https://www.facebook.com/kitanodaitidedaidougei>

●8月14（金）～16（日） ○帯広市

△フジロック・フェスティバル'20【延期】 <https://www.fujirockfestival.com/news/index> ○苗場スキー場

●8月21(金)～23(日)→2021年20(金)～22(日)

△お化け縁日 2020【中止】○深川江戸資料館、江戸資料館通り

●8月下旬の土・日

△立川諏訪神社例大祭【中止】<https://bluerose.biz/2020/05/tachikawasuwajinja/> ○立川諏訪神社(立川駅より徒歩10分)

●8月21(金)～23(日)

△《リモート》アートタウンつくば大道芸フェスティバル 2020 <https://arttowntsukuba.jimdofree.com/>

●8月30(日)

△第23回ながの大道芸フェスティバル <https://www.facebook.com/naganodaidougei/> ○善光寺門前町

●9月5(土)13:00～18:30

△第45回野毛大道芸【中止】<http://daidoge.jp/> ○横浜市・野毛商店街

●9月12(土)13(日)

△大道芸オスピタパーティ in 宇都宮 ZERO <https://www.facebook.com/ospitaparty/> ○宇都宮バンパ市民広場

●9月12(土)13(日)

くす田くす博、紙磨呂、けん玉師 伊藤祐介、ボールド山田

△モリコロパーク大道芸フェスティバル 2020 <https://mrkrddg.com/> ○愛・地球博記念公園モリコロパーク

●9月21(土)22(日)

アストロノーツ、AYACHYGAL、綾乃テン(※22日のみ)、オーバートーン、叶結(Kanauknot)、こ～すけ、Cyber Magician NOA、ジャグリングドラゴンヒョウガ、ゼロコ、大道芸人すごろく、大道芸人ジーニー、CHIKI、中村友美、フォーク曲げアーティスト Ryo(※20日、21日のみ)、リューサー、エトランゼ、Entertainer Hi2、オマールえび、くす田くす博、Kei、健山、ココナッツ山本(※20・21日のみ)、サンキュー手塚(※21・22日のみ)、ジョー次、物語人、Daggle KOMEI、ダンディふくちゃん、つくもん、にじいろペイントラボ、clown レオ、Statue Kai(※20日21日のみ)、スティルバード(※22日のみ)、なごやエアリアルラボ、PerForMer ZEN、松本かなこ、バルーンパフォーマーASUKA、バルーンパフォーマ哲、風船おじさんてりやき、MAGICIAN HIROSHI、めぐみ梨華、モノクロパフォーマーKai(※22日のみ)、油井ジョージワンマンバンド、YO-YO-Entertainer TOMMY、Rei Iwakura

△SAPPORO PERFORMANCE PARTY 2020【中止】<https://sapporo-performance-party.jimdofree.com/> ○札幌駅前、札幌駅前地下歩行空間

●9月21(土)22(日)

出演:ロ・ボッサ、うちー、斉藤航、エクストリーム芹川、多治見大道芸見本市、くす田くす博、ボイ魔人、さやかーちゃん、NPO 法人中部大道芸ネットワーク、ECC ジュニア美香保教室、松波裕樹、E'zon music、出塚真司、SEI☆YA、しばたゆえ、石川更紗、大道芸人パッド、コバルちゃん、CREATIVE STUDIO、AKKI'S、小安美喜、はなえだ、日暮貴之、大道芸人ジーニー、RYO

△高知大道芸フェス 2020 <https://www.facebook.com/DAIDOUGEI.KOCHI> ○高知市中心街

●10月3(土)10(日)

△第43回大須大道町人まつり【中止】<http://autumn.nagoya-osu.com/chonin/> ○名古屋市大須観音、大須商店街界隈

●10月10(土)11(日)

△大道芸ワールドカップ in 静岡【中止】<https://daidoge.com/> ○静岡市駿河城公園、呉服町通り、ほか

●10月31(土)～11月3(火祝)

△第2回日本大道芸フェスティバル <https://daidougei.net/> ○あいち健康の森公園

●11月7(土)8(日)

△第13回にぎわい爆発!あつぎ国際大道芸【中止】<https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/information/d049030.html>

●11月14(土)15(日)

若林正の

食って極楽

蕨の羊飯

・・・「このえや」

一旦収まったかに見えたコロナもどうやら第2波の広がりを見せ始めて、又も自宅待機でステイホームである。全く国の無策には腹が立つけど今さらコロナにかかりたくはない。という訳で外食はまたもやしばし自粛だ。そこで今回のネタがないかと自転車を転がしてみた。

すると前から気になっていたものの

入る機会がなかった店が貼り紙を出していた。

「ランチタイム始めました。お弁当あります」。駅前のジンギスカン屋で、「このえや」。昨年春先に出来た店で、蕨駅前のTSUTAYAの二階。立地は抜群だけど、この辺でジンギスカンって大丈夫かいなと思っていた。女房は羊が大好きなので弁当を買ってみるか、マTON焼肉弁当¥900を二つ購入。もちろん一つは大盛りで。

帰宅して楽しいランチ...と思ったが、うーむ量が少ない...というか弁当としては貧弱。肉と少しのモヤシにキ

ムチの付け合わせ、ご飯...だけ。羊肉は高いから量は少なめなのは仕方ないけどねえ、玉子焼とか付けてよ。キムチもちょっぴりだし、ご飯には梅干しもないよ。肉は柔らかで美味だが、米がパサパサで不味い。食った気がしねーぞ!コロナで弁当とか急に始めたから不慣れなんだろうと思うけど、これで¥900はないよ～肉はまあまあだから、今度はコロナ収まってから夜に店で食べてみようかとは思いますが、弁当は二度と買わない。○夜はもう少しマシと信じたい度

=2ワカ

「病魔退散祭」公演顛末

上島敏昭

前号でお知らせした、7月10日、浅草木馬亭での「病魔退散祭～ここらでおサラバ、いいコロナ～」公演は、無事に終了することができた。しかし、時を同じくして、新宿の小劇場でクラスターが発生して大騒ぎとなるにつけ、当方もコロナ対策は行ったものの、どうなることかと、10日ぐらいいは気が気でなかった。

ほぼひと月たって、ようやく胸をなでおろしている今日このごろである。今回はその取組の経過を述べ、成果および反省点も付記しておきたい。

◆公演決定は1か月前

われわれ浅草雑芸団は、1986年より毎年7月、浅草寺の縁日である「ほおずき市」当日、あるいはその前後に、木馬亭を会場に、日本の大道芸・物売り芸・見世物芸などを素材にした演芸の寄せ集め公演をおこなってきた。今年も例年どおり公演を予定していたところ、2月下旬、新型コロナウイルスの流行で、劇場・映画館など人の集まる場所はすべて閉鎖され、大道芸を含むすべての芸能の実演が中止または延期となった。ちょうど企画会議を開く時期だったが、それどころではなくな



3月いっぱい状況をみたものの、ウィルス禍は終息どころかさらに拡大傾向となり、政府は緊急事態宣言を検討していた。そこで急遽、3月30日、メン

バーを集め企画会議をおこなった。その結果、7月ぐらいいには、コロナ流行もある程度治まるだろうから、「例年通り公演」と方向性を固め、とりあえずテーマは「コロナウィルス撃退」、仮タイトルは「病魔退散祭～ここらでおサラバ、いいコロナ～」と決めた。その翌日、首相会見があつて自粛期間に突入した。自粛は一か月で解かれると思いきや、日本ばかりか世界中に流行が広がる始末。次に企画会議ができたのは延長された自粛期間が解けた5月31日のこと。映画館や劇場も「対策を講じつつ再開」という声も聞こえてきていたので、我々もとにかく公演することに決めて、テーマもタイトルもそのままに、準備をはじめた。

◆「三密」を避ける

とはいえ、演目も稽古場も稽古日程も未定で、40日後に公演というのは無謀である。それでも演劇とは違い、演芸バラエティで、出演者全員がパフォーマー。もともと個人芸披露が多く、さらに毎年公演を重ねてきた。今回は演目を各自が自粛中に稽古していた芸の披露を主軸に据えればなんとなんと見通しを立てた。

お客さんも7、8割は常連さんなので、内容など皆目見当もつかないまま、タイトルとイメージイラストを大きく描いたチラシを作り、お客さんにメールか郵送でお知らせすることにした。これは20日ぐらいいで送付が完了し、まもなく予約が入り始めた。稽古場は、私の住む東京都中野区の集会室が貸出を再開したので、登録している勉強会で申請して、5回借りることができた。

いっぽう木馬亭に連絡し、改めて予定通り公演するつもりであると告げ、コロナ対策その他について話を聞いた。それによれば、座席やドアなどの消毒を徹底し、観客だけでなく出演者



Photo.高藤彰

にもコロナ対策を求めるという。両者とも入場時には検温（37.5度以上は入場不可）と手指のアルコール消毒、マスク着用。客席と楽屋は往来禁止。公演前後も出演者と観客は接触禁止。客席定員は通常の半分（65人）、最前列は着席禁止、隣席は一席あける。客席でもマスク着用し飲食禁止。休憩時は通気、換気をする。また、演目も、同時に舞台に出る人数は少なくし、マイクの遣い廻し禁止、濃厚接触は避けるよう言われた。

客席だけでなく出演者も演目も「三密」を避けよということだ。また、受付・観客対応の専門要員を立てるよう要請された。かなりの制約である。ただ、舞台面に透明シートとか、演者間にアクリル板とかいわれたら面倒だな、と思っていたので、ちょっと安心した。

◆プログラム

稽古に入った。演目は、基本的に個人芸だが、例外的に多人数で行なう芸として、「フラメンコ玉すだれ」を初演することにした。これは玉すだれ博覧会（5月に予定されていたが中止となった催し）のために準備をはじめていた作品で、だいい稽古しないとできそうもない。



Photo.高藤彰

それ以外は各人のやりたい芸を募ったが、それをならべて思ったのは、個人芸ばかりだと単調でボリュームに欠け、テンポも良くない。やはり開幕とフィナーレぐらいいは、マスク着用でも大勢で舞台に並んでもらうのがよいだろう。

また、ゲストも必要と考えて、中西レモンさんに出演をお願いした。中西さんは3月から6月の自粛期間中に民謡のミニアルバム『みよこさま』（Doyasa! Records）を制作し、さらに葛飾北斎「須佐之男命厄神退治之図」の模写を完成させたと聞いていたので、そのアルバムから二曲の披露と絵画の展示・解説をお願いした。



(ミニアルバム『みよこさま』。収録曲「とらじよさま」
「斎太郎節」「どや節・遠島甚句」「津軽甚句」)

これらの演目を並べたうえで、いままでに雑芸団で演じてきたレパートリーの中から、なんとなくつながりがありそうな芸、あるいは対局になるような芸などを挟んでいって、とりあえずのプログラムを作り、最終的には公演前日のリハーサルでようやく次のように決定した。

開演はタイトルに従って「自動車ショー歌の替え歌」にのって全員登場して挨拶。つづいて、「大黒舞」、三味線俗曲「大津絵コロナ大流行」(大津絵両国のもじり)・サイコドンドン、「のぞきからくり節」(不如帰と八百屋お七)、「佐渡のおまんざい」。休憩。儀式より「託宣」、「インドの観光ガイド」、「猛獣の悪病退散大道芸」、ゲストステージ。休憩。「フラメンコ玉すだれ」、「珍楽器いろいろ」、「コロナ対策対応バナナの叩き売り」、フィナーレはフラメンコ・ルンバの替え歌「消えろ、コロナ」。



Photo.高藤彰

コロナ対策として 30 分ぐらいで換気するよう求められたので、休憩を二度とって、その間は出入り口の扉を解放することにした。

また、例年の通りお土産も付けることにした。今年の春先、墨田区のと菓子「梅鉢屋」さんにうかがって工場を見学させてもらい、伝統和菓子「野菜

の砂糖漬け」の作り方を教わったので、それを試作して、お客さん一人ひとりに差し上げることにした。

◆前日リハーサルと公演当日

前日はリハーサルに木馬亭を借りていたので、まず舞台設営をすませ、プログラムに沿って演じてみた。マイクや道具の出し入れ、幕の開け閉め、BGMと生演奏の音のバランスなどを確認する。これはいつもの通りだが、今回はほかにコロナ対策も考える。休憩時の扉の開け閉めは誰が担当するのか。またバナナの叩き売りは客席との交流があるので、これをどう処理するか。なにより開場時のお客さん対応はどうか。検温係、消毒係、パンフレットなどの手渡し係、お土産係、客席への誘導係……。それらすべてを香盤表に書きいれて、関係者のなかで情報を共有する。なんども皆で集まって確認して、その日は解散した。例年ならば、最終打合せに飲み屋に行くのだが、それも自粛だ。

翌日は開演 2 時間前に集合。楽屋では飲食可能なので、軽食を準備。飲み物は各自でペットボトルを用意してもらう。舞台は前日リハーサルで不安が残る場面を返したりしているうちに開場。笛と太鼓で祭囃子をする中を入場してもらった。入場待ちの列も一人ひとり間隔をとっており、検温や消毒するので時間がかかる。また客席に入れば一席ごとにロープが貼ってあるので、お客さんも途惑っているのがわかる。ちなみにお客さんは全員予約(メールと電話・fax)なので連絡先は控えてあり、万一の場合に備えて何うことはしなかった。

さて、公演がはじまると、あとは多少のゴタゴタはあっても舞台は進行するもので、いつのまにか終わっていた。その経過は次のサイトなどで紹介されているので、見ていただくとありがたい。

〈病魔退散祭〉(あがさの片道書簡)

<https://agatha2222.exblog.jp/29091094/>

〈浅草雑芸団「病魔退散祭」とコロナ禍の夜〉(なかひら まい)

<https://note.com/mainakahira/n/n08d36582c7f1>

◆反省会

公演当日はてんでこ舞いになるのは毎度のこと。たいていの場合、「打ち上げ」と称して公演後に飲み屋に出かけ、皆で乾杯して、あそこがどうだった、こうだった、あるいは、こういうやり方もあったのでは、とか、アンケートを読んだり、いろいろな話をしながら飲んで食べて、公演の良かった点、正すべき点などを自由に話し合うあう無礼講なのだが、指針では「打ち上げ」もやめるようにという。仕方がないので、後日に反省会をおこなって、今回の公演を総括した。

じつは公演少し前から、東京都の感染者はうなぎのぼりに増えていて、もしそれまでに木馬亭で感染者が出ていたら、あるいは浅草にクラスターが発生したら、公演どころではなかっただろう。その辺のことを、宮地隆治氏が facebook で「一週間遅れたら公演は難しかったのでは・・・」と書いてくれている。

https://m.facebook.com/story.php?story_fbid=3125383697554480&id=100002486425285

じっさい、反省会はコロナ感染の憂いが去った、二週間後の 7 月 25 日に、リモートで行った。皆で集まるのを危ぶむメンバーが多かったのである。反省会では簡単な収支報告もおこなった。入場料収入は小屋代と当日の楽屋の軽食代程度で消え、十数万円の赤字。それは覚悟の上で、この時期にできる方法を模索した事実が重要と私は考えている。アンケートはほとんどが、よくやってくれたと暖かい言葉に埋められていた。非常識だと考えた人は、当然、来場しなかった。それでも多くのお客さんが喜んでくれたのはうれしかった。

出演者の感想も大変だったが、よくできたという者が多かった。ただ客席ではなく楽屋は三密状態だったこと。やはり出演人数を調整すべきではないか、という意見。また開演中も出入り口は開扉と聞いたのが、下喜寿側係員には締めるよう注意されたといい、あまり徹底されないこともあった。また休憩中、お客さん同士が集まって談笑している場面もあり、そのへんも気をつかうべき。などの意見も出た。おそらくどれほど対策しようと遮断は不可能。どうやって実演するのか、答えは簡単に見つからない。